



「隣人愛」に基づく SSH

すべての科学技術や人間の活動はキリスト教信仰の「隣人愛」に基づき、世界の人々環境に深く配慮されたものでなければならないと考えます。

今回は、昨年度に行われたドイツ研修旅行の報告会を中心に、サイエンスキャッスル、環境活動推進ネットワークフォーラムのポスターセッションに参加した様子、また Kids'ISO14000 初級編に合格したことについて報告します。

《ドイツ研修報告会が実施されました》

12月10日、ドイツ研修に参加した生徒たちによる研修報告会が行われました。研修に先立ち、県内研修・国内研修で地元の取組を学んだことにより、より大きな成果が得られたことがわかる報告でした。姉妹校でドイツ人生徒に対して行った英語の研究紹介も再現され、見学した高校1年生と英語での質疑応答がありました。研修の成果として、再生可能エネルギーの普及に関するアイデアが紹介され、社会に出てからの活躍が期待される内容でした。



事後アンケートの結果から、参加した全生徒がドイツの人々の環境問題に対する意識の高さを感じ、化石燃料や原子力に頼らずに生活できることを知ったと答え、日常的に環境に配慮するようになり（70%）、国際的な環境問題への興味喚起（70%）につながるなどの生徒自身の変化を生じさせたことがわかりました。

【ドイツ研修後の生徒の感想】

- ・先端技術を持っている国と環境先進国は必ずしも同じではなく、ドイツが環境先進国と呼ばれる理由がよくわかりました。
- ・ドイツの政策を日本で同じように行っても同じ成果が得られるとは限らない。その国の土地、文化、生活習慣に合った取り組み方をみつけ、過ごしやすい環境を自分自身で考え、地域、県、国へと広げていきたいと思えます。

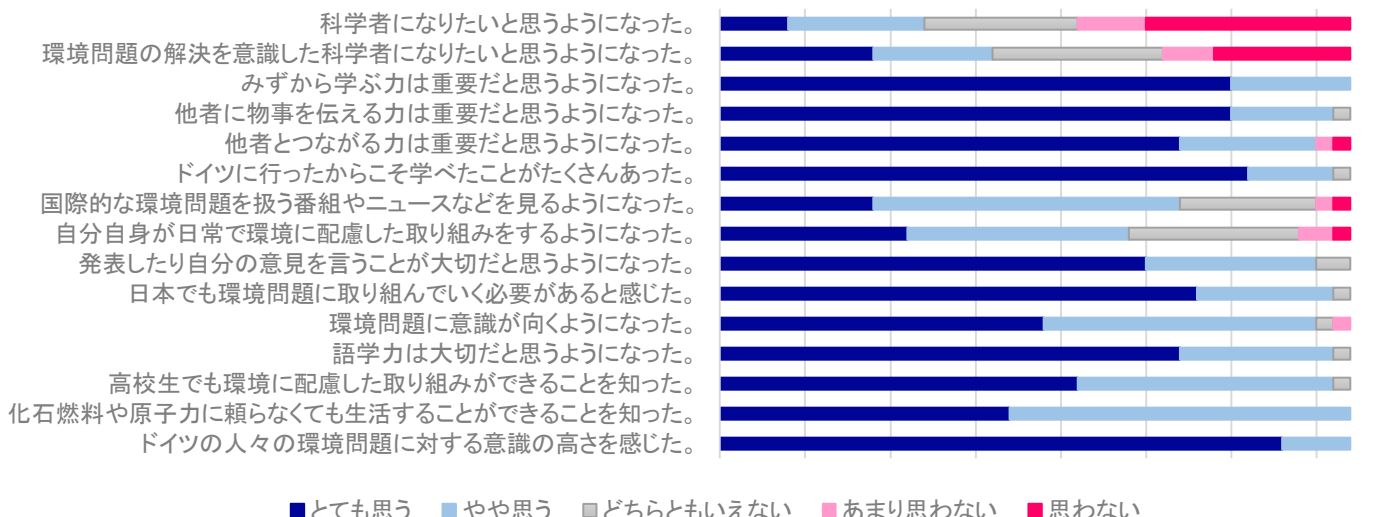
【報告会後の保護者の感想】

- ・我々の住む山梨の風土に合った再生可能エネルギーを生み出し、住みやすい街を作りだして欲しいと思いました。
- ・昨年と比べて生徒たちの発表内容がずいぶん高度になったと思います。

【報告会後の高校1年生の感想】

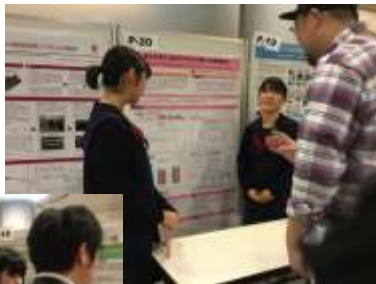
- ・先輩がドイツで見聞きしたことを山梨に適応させた提案をしているのを見て、自分たちにどのように生かすのかを考えることが大事なのだと思います。

ドイツ研修後のアンケート



## 《サイエンスキャッスルに参加しました》

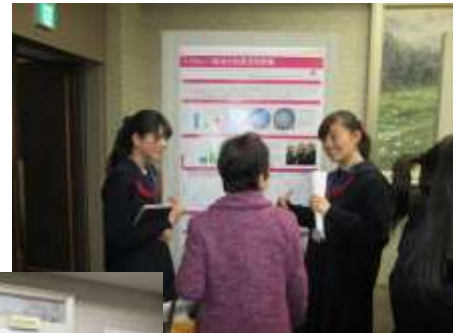
12月24日(土)TEPIA 先端技術館において、リバネス主催の中高生の学会：サイエンスキャッスルが開催されました。この大会は、全国4会場で行われ、関東だけで125本のポスター発表と12本の口頭発表がありました。山梨英和からは、SSHⅡと自然科学同好会の計10グループがポスター発表を行いました。また、特別公演会や企業のブース、実験・講習のコーナーなどもあり、ポスター発表では、審査のコアタイム以外でも質疑応答なども活発に行われ、とても有意義な時間となり、多くの学校の生徒との交流も行うことができました。内容も幅広く、物理・化学・生物・地学・数学・天文学・体育・工業等々非常に興味深いものもあり、研究の対象の広さ、深さに大きな刺激を受け、生徒たちは、それぞれの発表を通して、どうすればもっとわかりやすく内容を伝えることができるか等を考えるよい機会となりました。「英語でのプレゼンに挑戦しよう」というワークショップに参加した生徒もおり、他校の生徒たちと自己紹介や、研究の紹介や狙いなどを伝え合う練習などを行い良い経験となりました。



## 《環境活動推進ネットワークフォーラムに参加しました》



1月29日、環境活動推進ネットワークフォーラムポスターセッションの部が行われ、本校からは今年度の環境科学会で受賞した2本のポスター発表を行いました。高校2年生の「シラカンバ樹液の抗菌活性評価」は、発表後に会場から「内容がわかりやすく堂々としていた」という感想をいただきました。高校1年生の「土壌から分離した酵母の校庭緑化への



活用に関する研究」は、誠実で丁寧な説明をして優秀賞に選ばれました。その後の自由交換会では有益な交流ができました。

## 《Kids' ISO14000 初級編に合格しました》

Kids' ISO14000とは、国際芸術技術協力機構(ArTech)が開発し、国連・国際機構との協力で展開されている教育プログラムです。これからの子供たちに求められる「自分で考え・行動できる力」を身につけるためのものです。PDCA(問題解決のための方法論—Plan・Do・Check・Act)の手法を使って、環境をより具体的にとらえ、結果につなげる行為を子供たち自らが経験します。初級編は約1か月の実施によりワークブックにレポートを書き込み提出し、認定されると世界中どこでも通用する国際認定証を頂くことができます。

中学1年生は、スペシャルサタデーの一環で夏休みに各家庭で生徒が中心となって節電とゴミの減量にPDCAサイクルの手法で取り組みました。今年度は、その中から5名が、10月～11月に本編に取り組みました。12月に審査があり4名が見事合格し国際認定書を頂きました。取り組んだ生徒たちは、環境に対する意識が向上し、具体的にどのように取り組むとより効果的な結果が得られるかを体験しました。このPDCAサイクルは、今後の学習にも活かすことができます。これからのいろいろな課題の解決にこの方法を使ってより良い結果を得ることができるようでしょう。



次号では昨年度の研究発表会と公開授業についてその様子を詳しくご報告します。

